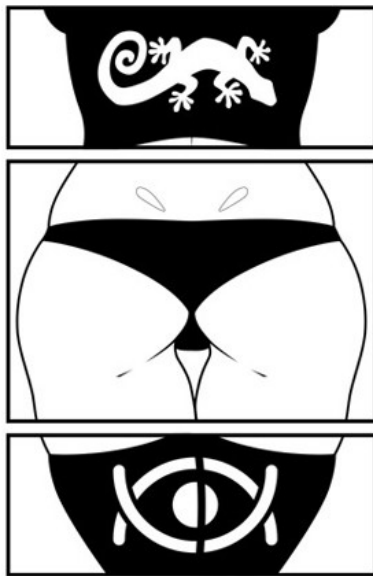


婦警脅迫中出し







蜥臀目

2022 10



『さようなら』

『社会のゴミ共』

『確かに、あんた達との取引は
良い副業になったわ』

『でも、もう用済み。
大人しく消されてどうぞ』



『なっ?』

『くそ!
いつの間に証拠なんか...』

『いや、待つて...
ネットにばら撒くのだけは...』



『あ、新しい取引?
わかったわ...』

『はあ?』
『ぶぎけないで!』

『本当に消してくれ...?
仕方ないわ』

『……これで良い？』

『さっさと証拠消してよ』

『黙れ！』

『あたしがどんな下着履こうが
あんた達に関係ないでしょ』

『はあ？！』

『お似合いの服があるから着てくれ、て？』

『約束と違うじゃない！
何であたしが……』

『言われた通り下着見せたでしょ
さっさと消してよ！』

『……チッ！』
『これだから……』

『はいはい
着れば良いでしょ』

『ほら』

『今度こそ
終わりでしょうね』

『こんないやらしい服
着せやがって！』

『そもそもこれ…服？
乳首もアソコも丸見えじゃない』

『いやー
めっちゃ似合うじゃないっすか
もうそれ制服にしろよ！』

『死ね！』

『着るわけないでしょこんなの！』

『もう満足した？
いい加減消してよね』

『最後に一つ？
次から次へと…』

『何？』
『ポーズ？』

『調子に乗らないで』

『命は勘弁してあげたし、
今後も一切ちよっかい出さないからさ
まだ足りないってわけ？』

『……』

『チ、分かったわよ』
『今度こそ最後にしてよね』

『くっ、いつもやってる事なのに、
こんな服着てるせいでめっちゃ恥ずかしい…』



『あーもう……
はい、これで良い?』

『もうこんなの
付き合っであれられないわ』

『って、きゃ——』

『なっ、何してんの?』

『ちよっぴー離して!—
ちよっぴー離して!—
ちよっぴー離して!—』

『離せ!』

『ひび?』



『あんなに狂ったわけ？』

『あたしのパンツをよくも！』

『あんなに達みたいなのが、見て良い所じゃないっての！』

『はあ？』
『奥まで見せろって？』

『なっ？』
『そ、それは……くっ……』

『わかったわ』
『一目ぼれいなさ？』



『……クズ共がっ！』

『分かったわよ』
『見せればいいでしょ！』

『もう良いでしょ！』

ちくしょう！
何であたしがこんな目に……

こんな奴ら
に大事な処見せるなんて……

証拠消した後
一人残らずぶっ殺してやるわ！

『わぁっ』

『ちよっどっ..』

『誰が触って良いって！汚らしい手を放じて』

『ちもなごっ……』

『わぁっ..』

『..』

スポッ

何？
指挿入られた？！



『これ以上好き勝手するとこっちも黙ってられないわ』

『もう良いでしょ！
今すぐ証拠消して、そしたらこの事も水に流して…』

『きゃっ！』

『ちょっと！
離して！』

『はあ？
あんた達の言った通りに
したじゃない！』

『ウォーミングアップが
終わったから
今から本番…って？』

『冗談じゃないわ！
調子に乗るのいい加減に…』



『じゃあ帰って良いぜ
証拠は流すけどな』

『……』

そんな……
それだとあたしの人生が…



『ぎゃー』

『やめっ、
何すんのよ！』

『あんた達、
まさか…！』

こいつら、
あたしを犯そうって言うの？！

こんな奴らなんかにも
でも反抗したら…

『やめっ』

『調子に乗るんじゃないっ…
ひいゃああ!』

「おいおい
ちよっと入れただけですっげえ潮吹いたよこいつ
本当はこういう期待してんじゃない?」

『ば、バカ言わないで!』

『そんな…潮だなんて…』

『こんなの
……ただの汗よ!』

『汗だから!
もう言わないで!』

くっ、こんな屈辱的な……

くそっ!

絶対に許さないんだから!

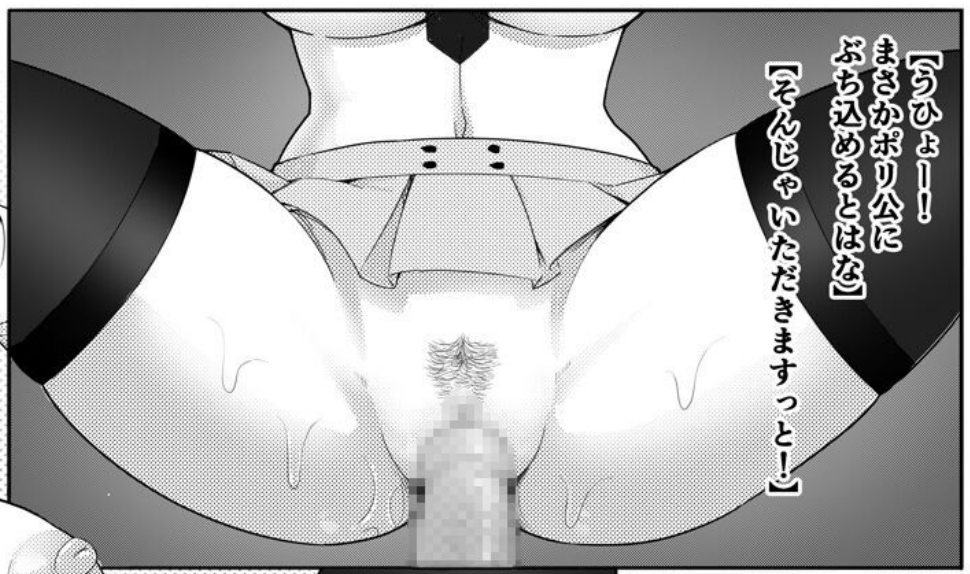


『やめて……
やめなさい！
命令よ！』

『あたしは警察よ！
分かってんの？！』

『警察をレイプするなんて、
何考えてんのよ！』

『殺されても良いわけ？
ちよっと！』



『うひょー！
まさかポリ公に
ぶち込めるとはな』
『ぞんじやういただきますっ！』



『いや』

ブチユツ

『や、やめ……』



『あんだ達…こんな事して…
後で覚えておきなさいよ!』

『今すぐ土下座して証拠消したら
命だけは勘弁してあげるわ』



『ギャハハ!
ブチ犯されてるメス豚の脅しに
ビビるわけねえじゃん!』



『ぼっかじゃねえの?』

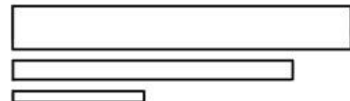


『黙れ!』

『あたしを玩具にしようだって
そうはいかないわ!』

『弱みを握ったぐらいで
調子に乗らないで!』

『もういい!
今すぐ
皆殺しにしてやる!』



『くっ
離して!』

『ぶっ殺すわよ!』

『ちよつと!』
『やめなさい!』

『性悪女のくせに
マンコの具合は最高だぜ!』

『おら!しっかり受け止めろ!』

また中にいい!

ちくしょう!
ちくしょう……

『いやあああ!』

『すげえ!
こんな名器初めてっすよ!』

『んふっうっうっ?』

『くそ!オレずっと前から
こいつを犯したかったぜ!』

『おどろきました!
早くぶっ殺してくれよお!
ギヤハハ!』

『そんなフリだよフリ
どう見ても犯されたがってる顔だぜ?』

『バ、バカ言わないで!』

『誰かそんな…んぎい
そんなことお…』







もう数えられないくらい中出しされた

あんなに見下していたクズ共に
あたしの体を好き放題弄ばれた

いつでも殺せるような虫けら共なのに、
どうしてこんな……

許さない！

「あ、あんだ達……
もう満足……よね？」

「早く証拠を……
そしたら……全員殺してやる……」

「ほーん、良いぜ？
ただ最後に一つだけ」

「婦警さんには、オレらの
肉便器になってもらいたい」

「もちろん、
断ったりしねえよな？」

